地域おこし協力隊 いいたてDIARY

11月30日が最終日となり、協力隊３年間の任期を終了しました。

直接ご挨拶できていない皆さまにはこちらの挨拶にて失礼いたします。

これまで至らぬ点もあったかと思いますが、皆さまからいただいた叱咤激励の言葉が私の励みとなり、多くの学びを与えてくれました。尊敬する一人である村民からも「環境が人を作るんだよね」との言葉をいただいた通り、3年前には想像もしていなかったワクワクするような出会いと経験がここ飯舘村にはありました。

今後も、飯舘村で出会った人達と笑い合える様、協力隊で培った経験を活かし、次の目標に向かい研鑽していきたいと思っております。

任期中に開催していたイベントなどは今後も継続していく予定です。これからも大好きな飯舘村におりますので、今後とも宜しくお願い致します。　二瓶麻美

３年間の任期を満了し
11月30日に協力隊を
卒業しました。

今月のライター
飯舘村地域おこし協力隊
二瓶 麻美 さん

おいしい飯舘！ までいの食卓

生産者の皆さんにおいしい食べ方を聞いてみよう！

『アンニョンハセヨ高橋トク子のキムチ』は「いいたて村の道の駅までい館」で購入できます。

キムチの巻

高橋トク子 さん
（深 谷）

看板商品のキムチの他、梅干し、漬物、味噌などを道の駅に出しています。やさしい甘さのカボチャ饅頭も人気です。

30周年を迎えるトク子さんのキムチ

村の事業「嫁と姑の旅」で訪れた韓国でキムチと出会い、「キムチの会」を結成し生産を開始。その後、『鍛治内の里なでしこ館』を立ち上げ個人で加工場を持ちました。工夫と改良を重ねて30年。「トク子さんのキムチじゃないと」と言うファンのため、までいに手をかけ、おいしいキムチをつくり続けています。

うまいっ！

生イカや沼エビなど魚介の旨味が効いた本格キムチ。発酵食品なので、発酵の進み具合による味わいの変化も楽しめます。

キムチチャーハンも深い味わいに

根元の部分を刻んでキムチチャーハンに。発酵が進んだキムチは鍋物にも◎

はしが止まらなくなる味わいに深いキムチです。食べ頃はお好みで。

残り汁を納豆のタレにする人も

はなれていても

大内 いずみ さん（八木沢・芦原）福島県福島市在住

夫の雄治さんと

福島藩の藩主・板倉氏に大内家の家臣が仕えた縁で、夫は30代から、板倉家家臣の子孫やゆかりの人で組織する「福島板倉温故会」の役員をしていました。ここ板倉神社は、地元の人が心の拠り所にしたいと城跡に板倉公を祀り、温故会が運営してきた神社です。

福島市に避難をした私たちは、地元の皆さんにやさしく接してもらいながら暮らしていました。当時、神社の周辺は、震災の影響で石垣などの修繕が必要になっていました。また、前任の方が高齢となり、温故会の代表を夫が務めることになりました。その後平成25年に本殿を直し、平成28年に社務所となる「福島城板倉会館」を建設。貴重な史料も収蔵するため、管理人として私たちが住むことを決めました。

目一杯流れに従うだけと人生を歩んできましたが、飯舘に骨を埋める気持ちでいた私にこういう縁があろうとは。想像もしていませんでした。

私の親は山形県の出身で、戦後、満州から引き揚げて前田豊栄に入植した開拓者です。私は早くに嫁いで、仕事をしながら農業もしました。村のスポーツ少年団には、指導者として長く夫婦で関わりました。

山登りやマラソン、山菜やキノコ採りも夫婦で楽しみ、忘れられない素敵な場面や美しい風景にも出会いました。

先輩や仲間がいて、いい出会いに支えられてここまできたと本当に感謝しています。

3人の子どもたちも村外にいます。その後はまだ分かりませんが、元気なうちにやらなければと、傷んでしまった家は惜んだ末に解体しました。

社務所で夫婦2人の生活になり、それぞれの趣味も持とうと、私はお茶を習い始めました。境内の草むしりには、農作業の経験が生きています。

そうした日々ですが、やはり村に戻るとほっとします。今は田植え踊りの復活に向けて、保存会の皆さんと練習をしています。地区の人の顔が見られて、練習はうんと楽しいです。

交流センター「ふれ愛館」だより

新しい年も交流センターから読書の輪を広げていきます

11月22日に『第23回いいたてむら読書メッセージコンテスト』の審査会を行いました。入賞した方々の本やメッセージを交流センター交流回廊壁面へ掲示しております。メッセージを通じて読書の輪を広げましょう。

また、村民の皆さんからの本のリクエストを受け付けております。どうぞお気軽にお声がけください。